

函館大学付属柏稜高等学校
自己点検・自己評価報告書
(令和6年度)

令和7年9月
学校法人野又学園
函館大学付属柏稜高等学校

令和6年度 自己点検・自己評価報告書 目次

各年度における取組状況	1
-------------	---

I. 教育活動

1. 教育理念と教育目標	2
2. 教育課程	2
3. 学習指導	3
(1) 教科の指導	
(2) 資格試験	
(3) 成績評価	
(4) 生徒による授業評価	
4. 進路指導	6
(1) 卒業生の進路状況	
(2) キャリア教育（3年間見通しての進路指導）	
(3) 関連校連携（キャリアデザインプログラム）	
(4) 進学指導	
(5) 就職指導	
5. 生徒指導	7
(1) 基本的生活習慣の確立	
(2) 生活行動面の指導	
6. 生徒会・クラブ活動	8
(1) 生徒会活動の活性化	
(2) クラブ活動の奨励	
(3) 生徒会クラブ予算の編成見直し	

II. 学校運営

1. 学生受入れ	9
(1) 生徒募集	
(2) 入学試験	
(3) 1年生対象入学後アンケート	
(4) 入学金減免制度	
2. 組織運営	12
(1) 教員の組織	
(2) 教員の個人年度目標・計画	
(3) 職員の組織	
(4) 教員による学校評価	
(5) 学校関係者による学校評価	
3. 地域連携	14
(1) 地域社会への貢献	
(2) PTA 活動	
(3) 同窓会活動	
4. 校内研修	14
(1) 授業・学習指導方法の改善	
(2) 危機管理	
5. 施設・設備等	16
(1) 図書室の運営	
(2) 保健室の運営	
(3) 施設・設備	
6. 管理・運営	19
(1) 安全教育・安全対策	
(2) 財務関係	

各年度における取組状況

	大項目	中項目	R2	R3	R4	R5	R6
I 教育活動	1. 教育理念と教育目標		○	○	○	○	○
	2. 教育課程		○	○			
	3. 学習指導	(1)教科の指導	○	○	○	○	○
		(2)資格試験	○				
		(3)成績評価	○	○	○	○	○
		(4)生徒による授業評価		○		○	○
	4. 進路指導	(1)キャリア教育（3年間見通しての進路指導）	○	○	○	○	○
		(2)関連校連携（キャリアデザインプログラム）		○		○	○
		(3)進学指導	○	○	○		○
		(4)就職指導	○	○	○		
	5. 生徒指導	(1)基本的生活習慣の確立			○	○	
		(2)生活行動面の指導			○	○	○
	6. 生徒会・クラブ活動	(1)生徒会活動の活性化	○	○	○	○	○
		(2)クラブ活動の奨励				○	○
II 学校運営	1. 学生受入れ	(1)生徒募集	○	○		○	○
		(2)入学試験	○	○			○
	2. 組織運営	(1)教員の組織			○	○	○
		(2)教員の個人年度目標・計画		○		○	○
		(3)職員の組織	○			○	○
		(4)教員による学校評価		○		○	○
		(5)学校関係者による学校評価		○		○	○
	3. 地域連携	(1)地域社会への貢献				○	○
		(2)PTA活動				○	○
		(3)同窓会活動				○	
	4. 校内研修	(1)授業・学習指導方法の改善	○	○	○		○
		(2)危機管理		○		○	
	5. 施設・設備等	(1)図書室の運営			○		○
		(2)保健室の運営					○
		(3)施設・設備	○	○	○	○	
	6. 管理・運営	(1)安全教育・安全対策		○		○	○
		(2)財務関係			○	○	○

※表中の○印はその年度中に改善に向けての取り組みのあった項目を示している

I. 教育活動

1. 教育理念と教育目標

創立者の掲げた学園訓三か条「報恩感謝・常識涵養・実践躬行」の下、創立者の「建学の精神」とは学園訓の三か条を具体的信条として、知・情・意を高度にして、しかも円満に発達させる真の学問追及をすることである」との精神を学校経営の根幹に据え、式典や行事など機会ある毎に触れている。

建学の精神・理念にもとづいて作成した中期経営計画を念頭に置きつつ、これからの新たな社会の変化に対応し、社会で求められる人材を育成していくために、「自ら学び続ける姿勢」「自立」「感謝・思いやり・良識」をキーワードとして、学校生活の様々な面で、生徒主体の活動を促すよう心掛けた。

【現状と課題】

令和6年度も教職員で共有している「自立」というビジョンを意識しながら各種の教育活動を実施した。授業においても学校行事においても、生徒自身が考え行動する場面が増え、普段の授業や「総合的な探究の時間」における学び、特別教育活動や学校生活全般において、生徒が自ら課題を設定し、調査し、考察し、発信するといった活動が活発に行われていた。こうした学びを今後、より一層推進していかなければならない。

コロナ禍において中学校生活を送ってきた影響もあり、入学時には幼い生徒も多い中ではあるが、卒業時には自立した人材として社会に貢献できる生徒を育成するために、以前の教育活動とコロナ禍に学び得たものを取捨選択、または融合させ、より良い教育活動を目指した。

2. 教育課程

令和6年度は学年進行で進んできた新学習指導要領に基づく新教育課程の完成年度であった。また、それに伴い全学年が観点別評価を行うことになったが、令和4年度以降、内規の見直しや校内研修、評価後の課題確認と改善を進めてきたため、令和6年度にはすべて適切に運営することができた。

【現状と課題】

進路希望の変化が著しく、75%前後が進学、25%前後が就職を希望する。進学・就職を問わず、社会に貢献し得る様々な能力、生涯に渡って学び続け成長し続けるための能力の育成が必須である。入学時学力については、以前同様、苦手教科を抱えた生徒が数多くいるが、近年は成績上位者の受験・入学も徐々に増えてきている。生徒一人ひとりを磨き、可能性を引き出すためには、授業改善・評価改善・日常の授業のレベル設定を少しずつ上方修正していくことが必須であり、場合によっては教育課程の再編も視野に入れていく必要がある。

I C T活用能力、外国語によるコミュニケーション能力、卒業後も生涯に渡って学び続ける資質と能力をはじめ、これからの社会で求められる資質と能力を養成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業はもちろん、特別教育活動の中においても教育の在り方を見直している。今後も様々な課題が生まれることが予想されるが、変化を恐れず、出てきた課題一つひとつに向き合い改善を進めていかなければならない。

3. 学習指導

(1) 教科の指導

令和5年度は、全学年の生徒にiPadが貸与され、ICT活用が大幅に進んだ。ICT活用委員会による教員研修や教員間の自主研修によりICT活用の試みが様々な形で進み、試行錯誤しながらも確実に前進している。令和6年度は、授業の中でICT活用を進めた部分がある一方で、改めてアナログに回帰した部分も見られた。今後も、より効果的な指導を目指して、ICT活用と従来の指導それぞれの良さを引き出していく。

全生徒にアカウントを発行しているoffice365の活用も増え、アンケート・小テスト・検定対策・各種案内と申込み・健康観察等、多くの場面でICTを活用している。教員の活用と同時に、学校行事等における生徒の主体的活用も見られた。

通常の授業においては全ての教科・科目において「基礎基本の徹底」「基礎学力・学習力の向上」を意識して指導を行った。また、講義型の授業から生徒の主体的な学びへの進化を目指して授業改造を目指した結果、生徒の頭の中がアクティブになるような生徒主体の活動場面が増えてきている。授業の中や進路活動においては、かなり工夫してICTを活用し始めているが、日頃の学習ではまだ受け身の生徒が多く、今後、より主体的な学びの姿勢を育てる、引き出す学習指導を展開していかなければならない。また、授業の難度設定については、近年の進路志望動向の変化、つまり、進学希望者の増加を考えると、基礎基本を大切にしつつも、少しずつ難度を上げていく必要がある。

(2) 資格試験

以前の反省から、案内する資格試験を精査し、事前講習などによってしっかり指導できるものに絞って実施した。

商業関係の検定における知識問題部分の学習にFormsを活用したり、英語検定対策としてスタディサプリやEnglishcentralを活用したりするなど、資格取得に当たってもICT活用を進めている。ただし、自信がないのか、受検者がまだまだ少ない現状であり、資格取得にチャレンジする生徒を増やす取り組みを検討していく必要がある。

(3) 成績評価

前述した通り、適切に実施することができた。日頃から評価観点を念頭に置いた指導を行い、試験問題作成、実際の評価に至るまで、教科担当者間で綿密に連携を取りながら、3観点を意識しつつ、公平公正な評価を行うことができた。

(4) 生徒による授業評価

＜授業、学校生活、行事や施設設備に関するアンケート＞

年度末アンケートの結果から、授業や学校生活の満足度に関する部分に注目すると5ページに示したグラフの通りであった。授業については肯定的な回答が多く、特に、学年が上がるにつれて満足度が向上している点は良い点かと思われる。ただし、入学時学力を考慮しつつも、進路希望の変化に合わせて授業のレベル設定ならびに試験のレベル設定を見直し、向上させていく必要がある。同時に、評価基準・方法について、常に留意しながら、それぞれの進路希望実現に向けた指導を行っていかなければならない。

【現状と課題】

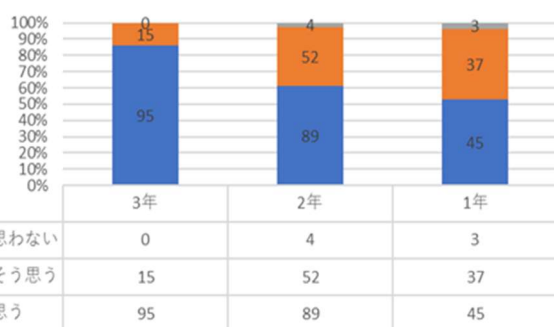
学力上位層が増加する一方で、学習習慣や進路意識が十分に身につけていない生徒、コミュニケーションスキル等の面で苦手意識を持った生徒が増加するなど、入学生に変化が見られ、多様化する傾向にある。また、進路希望動向も変化してきている。社会有為の人材を育

成するために、学習指導の在り方を改善していくことが必要である。これからの学びにおいては、「ICTを活用して学ぶ」というスキルや経験が重要であると思われるため、令和7年度以降は、授業者がICTを活用することに加え、生徒自身がICTを活用する場面を増やしていかなければならない。渡島・檜山学区の高等学校の中では、最も積極的にICT活用を推進している学校の一つではあるが、小中学校の活用状況に比べるとまだまだ不十分である。今後、より一層の活用を進める。

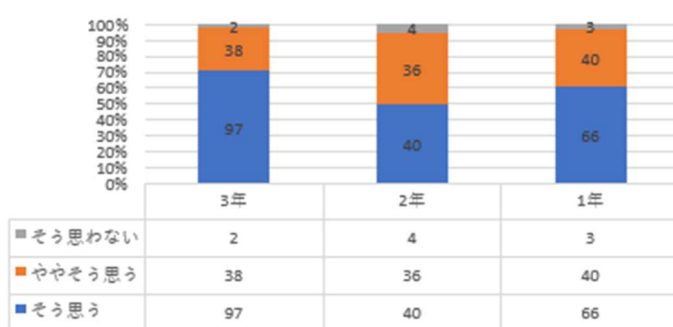
令和5年度末

令和6年度末

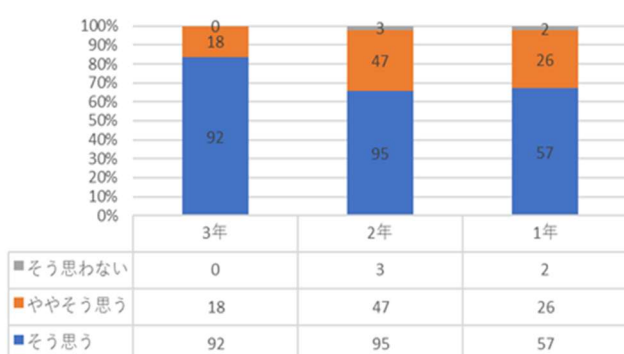
柏稜で高校生活を送って良かった（3年）
柏稜に入学して良かった（1・2年）



柏稜で高校生活を送って良かった（3年）
柏稜に入学して良かった（1・2年）



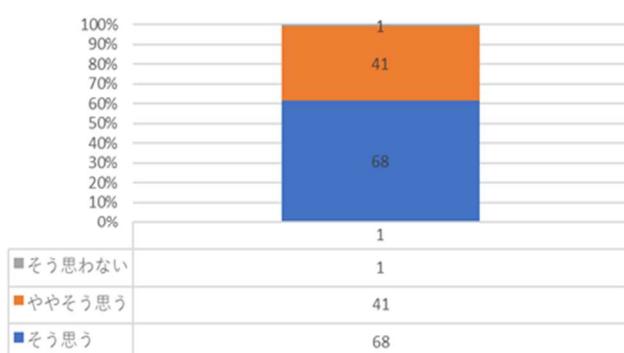
学校生活が充実していた



学校生活が充実していた



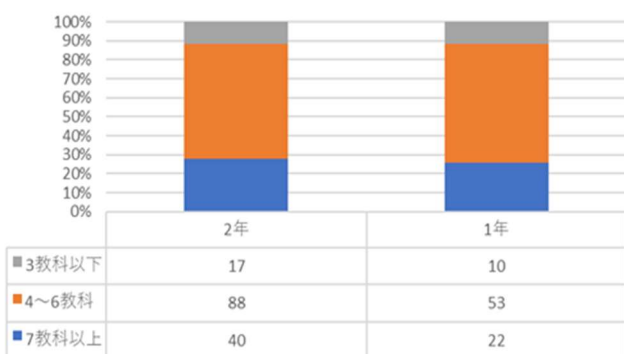
柏稜の授業は分かりやすかった（3年）



柏稜の授業はわかりやすかった



分かりやすいと思う授業数（1・2年）



4. 進路指導

(1) 卒業生の進路状況

卒業生の進路状況と進学者の内訳

卒業年度	大学	短期大学	専修・各種学校	看護・医療系	進学者計 ()内%	就職者計 ()内%	その他	卒業生 総数
令和2年度	20	5	35	15	75(67.0)	34(30.4)	3	112
令和3年度	23	12	61	18	96(85.0)	15(13.3)	2	113
令和4年度	26	10	58	17	94(69.9)	36(26.7)	5	135
令和5年度	21	12	52	19	85(78.0)	23(21.1)	1	109
令和6年度	29	12	60	25	101(72.7)	30(21.6)	3	139

就職者の内訳

卒業年度	管内	道内	道外	自衛隊・公務員	その他	就職者計
令和2年度	28	4	0	2	0	34
令和3年度	14	0	1	0	0	15
令和4年度	33	0	0	3	0	36
令和5年度	20	1	0	2	0	23
令和6年度	26	0	2	2	0	30

(2) キャリア教育

令和元年度から、より効果的な進路学習を目指し、外部業者と連携した活動も組み入れながら、生徒にフィットしたストーリー性のある進路指導プログラムを企画している。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、上級学校や進路関係業者の多様なイベントの中から、本校生徒に必要なものを吟味して実施することができた。また、総合的な探究の時間の一部に進路探究を組み込み、効果的に学ばせることができた。

(3) 関連校連携（キャリアデザインプログラム）

学園関連各校の協力を得て平成25年度にキャリアデザインプログラムがスタートした。

実施効果については、受講生の進学先での学修状況を調査することで検証可能と思われるが、現時点ではサンプル数が少ないため、今後さらにデータを蓄積することで分析を進めたい。ただし、3年生で実施する総まとめのプレゼンテーションやCDPアンケートから、我々が予想した以上に多くのことを生徒が学んでいることが如実に感じられる。

また、新たに夏期講習で有斗・柏稜合同講習を開講した。講習には函館大学・函館短期大学にも協力を仰ぎ、両学の入試を意識した講座も開講した。

(4) 進学指導

大学・短大・専門学校等、校種を問わず進学者の多くが学校推薦型選抜（推薦）、または総合型選抜（AO）で出願している現状から、面接指導・小論文指導など推薦入試対策を充実させてきた。その一方で、看護・医療系などを意識した一般受験対策講習や個別指導も継続しており、令和6年度は看護師・理学療法士・作業療法士・救急救命士・視能訓練士など医療系全体で25名が合格した。年度による在籍数や進学希望者数に変動はあるが、過去最も多い看護・医療系合格者を輩出した。

(5) 就職指導

「学び直し」の徹底、面接指導の強化、資格取得の推進、地元企業との信頼関係構築と情報収集などを進めてきた。

令和6年度も大きな混乱なく、早い時期から求人票閲覧・企業見学・就職カウンセリングなどの準備にしっかり取り組み就職活動を進めることができた。

就職希望者個別カウンセリングの回数や実施時期の見直し、長期休暇中のカウンセリング実施など、ハローワークとの連携を一層強化した。各種検定への挑戦や夏季休業中からスタディサプリを利用したSPI対策に取り組む等、積極的な準備のお陰で、就職希望者全員が内定を得ることが出来た。

【現状と課題】

キャリアデザインプログラムをはじめとする関連各校の協力と、進路指導部ならびに学年団との連携によって、進路学習・進路指導は順調に進んでいる。断片的・イベント的な取り組みに終わらず、3年間を見通したストーリーのある指導を目指して改善を進めた結果、令和6年度の3年生については、例年以上に進路への動き出しが早かった。3年生になってから「入れる大学」「入れる企業」を探すのではなく、1・2年生のうちから「行きたい大学」「行きたい企業」を意識するようになったところまでは良かったが、従来の課題であった「目標設定後の進路実現に向けた努力のスタート時期を早めること」は満足といえる状態ではなかった。むしろ前年度の3年生よりも努力を開始する時期が遅い生徒も目立った。進路目標設定後にどのようにして背中を押すかが今後の課題である。

放課後講習や長期休暇中の講習の充実、ICT教材の導入等、進路実現に向けた学習環境は整っている。教員側が生徒の可能性を信じて、目標達成・自己実現のための努力の必要性を働きかけていきたい。

5. 生徒指導

(1) 基本的生活習慣の確立

「自立」した生徒を育成していく上で、基本的生活習慣を確立することは不可欠であることを再確認し、「小さなこと」を「小さなうちに」ということを意識して指導に当たった。小さな気の緩みや小さな甘えを「このくらいは……」と見過ごしてしまうと、その緩みや甘えは次第に膨らみ、生徒の「自立」を阻害することになる。卒業後、進学・就職でそれぞれの道に進む生徒を在学中に大人として「自立」させるために、「小さなこと」「小さなうちに」を大切にした。

また、今まで「丁寧な指導」、「たくさん手を掛ける指導」を意識するあまり、生徒が出来ることにまで教員が手を出してしまっているのではないかという反省から、「出来ることは生徒自身に取り組みせ、それを見守る指導」への転換を意識しながら業務に当たった。

令和7年度以降も継続して「生徒自身に考えさせ、行動させる」ことを目指し、様々な取り組みの中で、「出来ることは生徒自身に」取り組みせ、見守ることを心掛けていく。

(2) 生活行動面の指導

「生徒一人ひとりに向き合う、統一した基準の生徒指導」「問題行動の未然防止、再発防止」「ICT活用推進に伴う問題行動の未然防止」を目標として活動した。

発生した生徒事故については、生徒指導規定と内規を基準としてしっかり判断することができた。問題行動により何らかの処分を受けた生徒に対し、普段の授業やクラブその他で関わ

りのある生徒か否かに関わらず、非常に多くの教員が面談を行ってくれたが、生徒の日誌の記載や生徒自身の声によれば、様々な教員からの話が生徒自身の行動を振り返ることにつながっており、令和7年度以降も出来るだけ多くの教員が関わるようにしていく。

また、長期休業明けの頭髪検査等で注意を受ける生徒がほぼいなかった点は、これまでの指導の効果が少しずつ表れてきた成果と思われる。

令和7年度からスマートフォン端末の自己管理を予定しているため、ルールやマナーをしっかりと理解させ、トラブルが起こらぬように指導していきたい。

【現状と課題】

生徒の「自立」を意識した指導、時代の変化等に合わせた、抑えつけるのではなく理解させる指導へと変容してきている。また、「ブラック校則」が社会で注目されるようになり、文部科学省からも校則が適切なものか否かを確認するよう通知が出され、本校においても校則の見直しを行った。令和7年度も継続して校則や指導内規等を確認していきたい。

問題行動は以前ほど多くはないが、不登校歴や不登校傾向のある生徒、中学校では不登校と見做されないが保健室登校・別室登校をしていた生徒も数多く入学している。その結果、以前であれば高校入学の時点で身につけていたであろう様々な習慣や一般常識的なことを理解していない生徒、コミュニケーションに問題を抱える生徒が増えた。預かった以上、高校3年間で「自立」した大人になれるよう、家庭とも連携しながら指導に当たっているが、中には子どもにしっかりと指導できずに保護者が許してしまうケースも出てきており、担任・学年団が対応に苦慮することがある。生徒を「一人前の大人」「社会有為に人材」の成長させるために必要な指導であることを共有し、保護者とともに指導に当たっていく。

6. 生徒会・クラブ活動

(1) 生徒会活動の活性化

本校のビジョンである「自立」の実現に向けて大きな効果が期待できるものの一つが、生徒会活動・委員会活動であることを念頭に置き、生徒の主体的な活動を促した。各行事の運営に当たり、教員が指示を出すのではなく、事前に生徒間で話し合いを行わせた上で教員が助言していくということを意識した。「生徒が作る柏稜祭」、「生徒主体の委員会」を目指して指導に当たった結果、新規イベントの提案等の自主的な活動が見られるようになってきた。令和6年度は生徒会を中心に、一部校則の見直しについての提案があった。

一つひとつの行事における準備には今までよりも時間が掛かるようになり、教員の負担はむしろ以前より大きくなったが、話し合いを重ねる中で生徒が成長していく姿が見られた。

(2) クラブ活動の奨励

クラブを活性化し、クラブ活動を通して生徒の成長を促すためにクラブ活動の在り方を考える機会を作った。教員だけが考えるのではなく、教員と生徒でクラブの目標や活動に当たっての約束事等を考え、それを意識しながら活動していこうという狙いであった。学校の教育活動の一環としてクラブ活動がある以上、勝利至上主義に陥ることや単なるレクリエーションになることはあってはならず、「生徒の成長」という教育的効果が求められる。令和6年度も野又学園と本校のクラブ活動方針を踏まえつつ、生徒・保護者の期待に応える活動、生徒の成長につながる活動を展開することができたが、満足することなくより良いクラブ活動の在り方を模索していきたい。

(3) 生徒会クラブ予算の編成見直し

課題であった生徒会予算のクラブ部費に関しては、過去の予算額に縛られることなく、(クラブ顧問と主将もしくは部長との間で必要経費を検討) → (購入希望用紙の提出) → (顧問会議) → (予算の見直し) → (次年度の予算案の決定) という手順で進めるよう見直しを図ってきた。令和7年度予算の編成に当たり、教員間にこの趣旨がかなり浸透してきた。

【クラブ加入率の推移】

	R2 (389 名)	R3 (395 名)	R4 (414 名)	R5 (355 名)	R6 (325 名)
運動部	196(50.4%)	201(50.9%)	182(44.0%)	172(48.5%)	177(54.4%)
文化部	49(12.6%)	45(11.4%)	47(11.4%)	49(13.8%)	50(15.4%)
合計	245(63.0%)	246(62.3%)	229(55.3%)	221(62.3%)	227(69.8%)

教員数とクラブ数の関係で、以前は一人顧問のクラブがほとんどであったが、クラブ以外での生徒対応の増加や、事故・怪我への対応などを考慮し、できる限り二人顧問とすることを目指してきた。令和6年度は、運動部については二人顧問とすることができたが、文化部はまだ半数に留まった。また、文化部顧問は運動部副顧問、または複数文化部の顧問を兼務する形となっており課題は残る。

【二人顧問の割合】

	R2		R3		R4		R5		R6	
	運動	文化	運動	文化	運動	文化	運動	文化	運動	文化
全クラブ数	12	7	12	7	12	6	12	6	11	6
二人顧問のクラブ数	9	2	9	3	7	1	11	2	11	3
二人顧問のクラブの割合 (%)	75.0	28.6	75.0	42.9	58.3	16.7	91.2	33.3	100	50.0

【現状と課題】

生徒会ならびに委員会の活性化は順調に進んでいる。「自立」を目指し、生徒の主体的な活動を大切にしていくことで、より活発な活動とより高い教育効果が期待できる。

クラブ活動については、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症に伴う全国一斉臨時休業やクラブ活動制限などの影響による加入率の低下が問題だったが、令和5年度に続き、令和6年度も加入率に回復傾向が見られた。ただし、所属生徒がいなくなって時点でクラブを廃部とするなどの対応はとっているが、現有教員数とクラブ数のアンバランス、労働基準法に則った教員の勤務時間の制限など、難しい問題が山積している。それらに関連した見直しも必要な反面、大きな教育的効果・意義を持つものでもあるので、令和7年度以降も改善に努めたい。

Ⅱ. 学校運営

1. 学生受入れ

(1) 生徒募集

広報活動は本校の教育活動を広く正確に知ってもらう上で非常に重要である。本校は広報活動として主に次の①～⑥の6項目に力を入れて取り組んだ。

①発信内容の精査

本校の目指す教育、育成すべき生徒像、本校で行われている取り組みやその目的、生徒の活動の様子や感想、進路状況等、本校の魅力をより多くの中学生・保護者に感じてもらい、第1志望として選ばれる学校になれよう広報活動を展開した。

令和6年度までのホームページでは、学校行事・各種の講話や講演・クラブ関係の大会報告等を中心に記事をアップしてきたが、令和6年度はそれらに加え「日常の風景」をアップするよう心掛けた。生徒たちは授業・クラブ・行事等、どんなことにも常に真剣に取り組んでいる。ICT活用も進んでいる。検定・資格・受験対策等への取り組みや個別指導を受けている生徒の姿、頑張っている生徒紹介や教員紹介。そういった「いつもの柏稜」を伝えることを意識した。

②学校見学会

本校生徒が様々な役割で参加することによって、柏稜の雰囲気をより身近に感じてもらえるように計画した。「学校説明」「学校紹介 DVD 上映」「歓迎演技・演奏」「高校授業体験」「スタディサプリ体験」「柏稜座談会」「クラブ体験」「ALT・ESS 部による英語コミュニケーション体験」等、多彩なプログラムで開催したが、アンケート結果によればいずれも好評であった。令和7年度以降も、本校の魅力をより PR できる見学会を模索したい。

【学校見学会の参加状況】

	R2		R3		R4		R5		R6	
	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回
生徒	97	166		211	100	81	105	110	99	100
保護者							43	52	71	46
小計	97	166		211			148	162	170	146
合計	263		211		181		310		316	

③中学校進路学習会への講師派遣

【中学校の進路学習会への講師派遣依頼件数】

年度	R2	R3	R4	R5	R6
校数	13 校	16 校	14 校	18 校	17 校

中学校での進路学習会への講師派遣依頼校数は上表の通りである。

以前は3年生を対象としたものが中心であったが、近年1・2年生を対象としたものも増加傾向にある。実施形態は、体育館等での一斉講話、教室毎に分かれて希望する高校の講話を聞くもの、全体講話の後にブース形式に分かれるものなど様々である。

令和6年度は17校で、延べ853名に進路講話を行った他、総合学習や宿泊研修において6校の中学校から延べ24名が来校した。

これらの機会を利用して本校の取り組みを伝えることは広報的に非常に大きな意義を持っている。広報によって中学生ならびに保護者の興味を喚起しなければ、そもそも選択肢には入らない。選択肢に入った後は、在校生にどれだけ充実した指導ができているかが問われる。広報の充実と教育内容の充実を両輪として、今後も活動していく。

④学校の訪問

コロナ禍においては年間2回の中学校訪問を行っていたが、令和5年度からコロナ以前に戻し、5月に受験・入学のお礼と卒業生の進路報告を中心とした訪問、7月に学校案内配

布と学校説明、在校生報告、その他情報収集を中心とした訪問、10月に入試要項ならびにWeb出願マニュアルの配布と進路決定に向けた最終の学校説明を中心とした訪問を行った。

令和4年度までは本校に寮がないこともあって卒業生・在校生の出身中学を訪問していたが、令和5年度からはそれらに加えて、受験者がいる中学校にも訪問範囲を広げた。令和6年度はさらに範囲を広げ、奥尻を除く渡島・檜山の全中学校を訪問した。

⑤報道関係の対応

北海道新聞、北海道新聞みなみ風、函館新聞、北海道通信を中心に教頭が対応している。

各種行事やクラブの各種大会等の際には、教頭や担当分掌の教員・クラブ顧問が適宜対応している。また、NCVやラジオ等の取材も学校長の許可を得た上で、同様に対応している。広報すべき諸活動は年間行事計画でチェックし、その事前・事後に報道関係に連絡する体制を整えている。コロナ禍においては、アナウンスする行事を精査していたが、少しずつ、アナウンスできる行事が増えてきた。

⑥各種広報資料の作成と配布

柏稜の魅力を十分に伝え得るパンフレットを目指して、平成29年度から毎年見直しを続け、平成30年からは学校パンフレット作成経験の豊かなデザイナーを入れて改善を図ってきた。また、ホームページについても若手教員が中心となってニュース更新を行っている。

平成31年度から、秋の中学校訪問の際に、「中学校教員が三者面談において生徒・保護者に柏稜を勧めるための材料を提供する」という目的で新たな配布資料を作成した。現在の柏稜の取り組みの中で、特に力を入れていることをPRするリーフレットとして、中学校側の反応も良好だったため、令和6年度も継続した。

(2) 入学試験

本校では、1月に特別奨学生を含む推薦入試、2月に一般入試を実施している。推薦入試では、人物・意欲に重点を置いて面接試験を行っている。一般入試では、基礎的な事項を中心に学力を判定し、面接によって人物・意欲を判定している。また、一般入試の際に受験者にアンケートを実施し、入学手続き終了後に分析を行った。本校の公立併願校や私立で迷った高校、本校の志望順位等を把握し、令和7年度以降の生徒募集に生かすように心がけた。

<生徒情報共有のための中学校との連携>

高校での指導をスムーズに進めるために、中学校からの情報提供は非常に重要である。特に、病気その他の事情による長期欠席のある生徒や、特別な配慮を必要とする生徒の情報は不可欠なものである。入試直前における中学校からの生徒情報の提供件数、相談件数は次の表の通りである。また、令和7年度入試において、出願書類に事情説明の書類が添付されていたケースが27件、調査書内容から事情確認が必要と判断しこちらから問い合わせを行ったケースが7件あった。

ただ、配慮が必要であるにもかかわらず、中学校からは全く連絡が入らず、入学後の保護者からの相談等で初めて事情が判明するケースや、別室登校・保健室登校等で欠席扱いになっていない「隠れ不登校」も数多くあり、対応に苦慮している。

【入試直前における中学校からの情報提供・相談件数】

	H30 入試	H31 入試	R2 入試	R3 入試	R4 入試	R5 入試	R6 入試	R7 入試
情報提供・相談件数の総数	60	54	69	79	75	48	46	68

(3) 生活状況等に関する調査

例年実施している生活状況等に関する調査から、下記のような結果が得られた。

①学校案内やホームページの閲覧状況

学校案内（パンフレット）は「しっかり読んだ」「部分的には読んだ」という人が 75.7%、HPを見たことがあるという人が 90.2%と、いずれも良く活用されていることが確認された。さらに内容を充実させ、見やすいものへと工夫していくことが大切と考えている。

②学校見学会

2回の学校見学会に、中学生延べ 199 名、保護者延べ 117 名が参加してくれた。他校との日程重複が当然あり、中学生は興味のある高校を選んで参加するため、1・2 年次の進路学習会や、学校案内、HP、リーフレットなどで、まず、柏稜に興味を持ってもらうことが非常に重要である。その上で、学校見学会に参加し受験を決意してもらえるよう今後も工夫を続け、参加者の増加と入学率アップにつなげていきたい。

③柏稜に対する印象

「明るい」「楽しい」「先生・先輩が優しい」「温かい」といったポジティブなイメージが上位を占めている。本校で高校生活を送っている生徒たちの生の声を広報活動に生かしていきたい。

(4) 入学金減免制度

入学者の中の経済的負担が大きな家庭に対する配慮として、平成 30 年度入試から、入学金減免制度を導入し、令和 6 年度入試においても継続した。令和 6 年度入学生 105 名中 31 名（29.5%）が制度を利用している。

【現状と課題】

函館市内の中学校の統廃合が進み、学校数は減少しているが、多くの中学校から進路学習会講師の依頼を受けている。中学校訪問時に必ず講演・講話について声掛けをし、実際に呼んで頂いた際には本校のPRをしつつも、「中学生のためになる講話」、「中学校の先生方の進路指導を助ける講話」を心掛け、継続的に進路学習会講師の依頼が来るようにしている。

令和 6 年度入学者数は 105 名で、令和 5 年度に比べて若干の改善が見られた。15 歳人口の減少、道立高校入試における自己推薦制度への完全移行、受験層が上に伸びて道立高校へ抜けていく数が増加したこと等、様々な原因が考えられるが、選ばれる学校になっていくための過渡期ととらえ、数年来、本校が推し進めてきた「学習力・基礎学力」「ICTスキル」「外国語によるコミュニケーションスキル」「実践力」の向上を継続した。その上で、成果を正しく広報し、「絶対に柏稜に行きたい」という第 1 希望志願者を増やしていくことが急務である。

2. 組織運営

(1) 教員の組織

学年主任・分掌部長・教科主任の呼びかけによって、独自に打ち合わせ会議を持つことが増えており、情報共有・意識の統一が進んでいる。

若い年代の教員が増えてきており、キャリアのある教員からの助言・アドバイスや、多様な経験の伝達も重要である。その一方で、若手教員の ICT スキル等には目を見張るものがあり、それぞれの良さを生かしてより良い教員集団を形成したい。一方で仕事量の不均衡な

ど、長年の課題も残っており、改善に努めていく。

(2) 教員の個人年度目標・計画

教員には新年度に個人の「年度当初の目標・課題等」の提出を義務付け、年2回の教員面談を実施している。「年度当初の目標・課題等」のシートでは「学習指導」「進路指導」「校務分掌」「生徒指導」について、目標と具体的な取り組み、達成状況と今後の課題について記載することとしている。令和6年度も、学習指導について新学習指導要領とICT活用に関する記載を義務付けた。また、令和6年度は、クラブが持つ教育的効果を今まで以上に引き出すため、クラブ指導の面だけでなく自己研鑽や進路指導、地域貢献に係る内容も記載することになっている「クラブ指導に係る評価シート」に加え、「クラブ目標シート」も提出させて指導を行った。

それらをもとに、面談の際に、目標の進捗状況、課題の解決状況、クラブ指導、授業改善等、学校業務の様々な面について指導している。

(3) 職員の組織

令和6年度、本校の事務職員は、事務長をトップにして専任が4名、パートタイムが1名の5名体制でスタートした。年度途中で1名が有斗高校に異動したが、事務長の指示の下、業務の引き継ぎ、再分担を大きなトラブルなく遂行することができた。

近年、就学支援金制度の開始ならびにシステム変更（「e-shien」システム正式運用開始）に伴い、扱う情報量が急激に増加し、それと同時に事務作業量も急増している。また、以前より多くの個人情報が入集まるようになりその管理も課題である。

令和7年度以降も、事務の効率化・適正化を目指して、事務長を中心に業務の見直しと改善を進めていくと同時に、ジョブローテーションによって互いにカバーできる範囲を広げていく。

(4) 教員による学校評価

教員による学校評価を年度末に実施しているが、集計結果は22～23ページに掲載している。全体の平均は3.69で令和5年度よりも0.1ポイント高い数値となった。

個別の項目に目を移すと、令和5年度評価で3.0を切っていた「クラブ数」「教員と事務との連携」「地域との連携」「ハラスメント」の項目で3.0を超える数値となっており、改善が認められた。また、他の項目に目を移すと、ICT関連等、改善を始めていてもまだ十分でないと思われる部分や、改善が進んでいても今後より一層重要度が増す部分はポイントが低くなっている。そういった意識を令和7年度以降の改善につなげていきたい。

コロナ対応・新学習指導要領への対応・観点別評価の導入・ICT化・授業・分掌業務・生徒指導・クラブ指導など様々な場面で今までと違った対応が求められている。特に、個別対応が必要な生徒が増えており、教員の負担が大きくなっていることが大きな懸念材料である。

(5) 学校関係者による学校評価

学校関係者評価は、年度末にPTA役員に実施している。結果については24ページに掲載している。令和6年度はPTA研修の再開や学校祭でのPTA模擬店実施等において、コロナ以前の活動を取り戻すことができた。唯一「学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている」という項目で令和5年度を下回る結果となった。本校の取り組みが評価されている以上に、期待される役割が大きくなっていることを受け止め、その期待に応えるべく改善を進めていかねばならない。

【現状と課題】

生徒により良い教育を提供するために、学校における様々な活動について見直しを行い、それに伴って学校の組織も見直しを図っている。少しずつ改善は進んでいるがまだまだ十分とは言えず、業務の精査や在り方の見直しを今後も継続していかねばならない。

3. 地域連携

(1) 地域社会への貢献

夏祭りや餅つき、乃木神社例大祭のボランティア、町会の新年会、柏稜PTA研修への地域住民参加、柏木町会との合同清掃、避難訓練同一実施、柏稜祭の地域開放等、新型コロナウイルス感染症の発生前は、柏木町会を中心とした学校周辺地域と多くの場面で関わり、様々な機会に交流を持ってきた。

令和6年度は上記のうち、夏祭り、合同清掃、柏稜祭の地域開放を再開することができた。地域との交流はまだまだ以前のように行かないが、社会福祉部が定期的におこなっている柏木町会の清掃活動は継続することができた。

(2) PTA活動

「柏稜祭」での出店、PTA研修会、校内スポーツ行事でのPTA賞提供などを行ってきた。令和6年度は、本校の総会・懇談会・PTA研修、高P連道南支部の総会や研修会等、少しずつ以前の活動が戻ってきている。

(3) 同窓会活動

近年、同窓会参加者の減少傾向が続いており、その打開策として、年度ごとに積極的に声掛けをする学年を決めて同窓会との連携を図ってきた。

それでも、令和6年度も参加者減少傾向に歯止めがかからず、今後も大きな課題である。

【現状と課題】

地域連携は今後も重要な課題である。現在の教育改革においても「地域に開かれた学校」、「地域とともにある学校」であるということが重視されており、連携を強化することは本校にとっても、生徒にとっても、そして地域にとっても大きなプラスとなり得る。できることから少しずつ連携を図っていきたい。

4. 校内研修

(1) 授業・学習指導方法の改善

全学年ならびに教職員へのiPad貸与、全校生徒へのoffice365のアカウント発行、電子黒板設置、校内Wi-Fi整備、スタディサプリやEnglishCentral等のアプリ活用をはじめとして、ICT環境の整備は以前から進めている。令和6年度は、導入から8年が経過し、耐用年数を超過している電子黒板について、新機種のデモや説明会を企画、実施して入れ替えに備えた。

ICT活用委員会による教員研修、教員間の相互研修等により教員スキルは年々向上している。授業だけでなく、行事や連絡事項、各種申し込み、アンケート等の場面でも活用が進み、ICT化が進んでいる。令和6年度は実力試験や到達度テスト等でもCBTを導入した他、ICTを活用した適性検査についても検討を進めた。

①業時数の確保

1単位当たり35時間という文部科学省が定める数字は確保できた。同時に、教員の働き方改革の観点から、1単位当たり35時間を超える授業実施を見直すよう通知が出ている点

から、令和7年度以降、授業実施の更なる効率化を心掛ける必要がある。

②学習用アプリの追加

令和6年度でスタディサプリー導入6年目になり、活用が進んだ。特に数学科が積極的に活用している。「総合的な探究」の時間にもリクルート社スタディサプリーのパッケージを活用している。生徒のプレゼンテーションやまとめの資料等々から、単に調べたものをまとめて発表しているわけではなく、生徒たちが自身で、もしくはグループで思考し考察していることがうかがえた。また、令和6年度は各教科から挙がってきた学習用アプリについて、ICT活用委員会で確認した上で全端末へのインストールを行い、今後のより一層の活用を促した。

(2) 危機管理

①防災対策

令和6年度は、函館東消防に連絡・相談の上で、東京消防庁作成のICT資料を活用した避難訓練を実施した。地震火災時の命の守り方や、消火器の使い方、リモート防災訓練などの教材を視聴後、CBTでテストに応じていく形式で、分かりやすいと生徒にも好評だった。

本校は函館市指定の避難所となっているため、市より防災備品が届いている。現時点で保管している防災備品は下記の通りである。これとは別に、学園独自の備蓄品のうち柏稜分として隣接の函館看護専門学校に、次の物を備蓄している。

- ・保存水 24 本入り 20 箱
- ・保存用カンパン 60 食入り 24 箱
- ・組み立て式簡易トイレ 5 台
- ・簡易トイレ用の便袋 500 回分 5 セット
- ・毛布 230 枚
- ・カセットコンロ 2 台
- ・カセットボンベ 3 本 2 組
- ・ダンボールベッド 12 台

(以上、函館看護専門学校備蓄)

令和6年(2024年)

避難所台帳（備蓄品・資機材リスト）

避難所No.		83									
名称		函館大学付属柏稜高等学校									
【 非 常 食 】											
保管場所		A		B		C		D		E	
		0		0		0		0		0	
No.	品 名		規 格 等		備 蓄 数		梱 包 数		保管場所	購入年度	更新年度
1	保存用パン		1食/100g以上(2種入り) 380Kcal 缶詰形状、アルミバッチ包装した紙製罐入り		120 食		5 箱		A	R5	R10
2	レトルトご飯		1食/260g以上、アレルギー物質不使用 1食につきスプーン1本付、アレルギー表示		0 食		0 箱		0		0
3	レトルトご飯(おかゆ)		1食/260g以上、アレルギー物質不使用 1食につきスプーン1本付、アレルギー表示		100 食		2 箱		A	R5	R9
4	アルファ米		1食/出来上がり260g以上、アレルギー物質 不使用、1食につきスプーン1本付		0 食		0 箱		0		0
5	備蓄用ゼリー		1食/100g以上/200Kcal以上 アレルギー物質28品目不使用		0 食		0 箱		0		0
6	飲料水		1本/500ml ナチュラルミネラルウォーター		480 食		20 箱		A	R4	R10

【資機材（生活用品）】

保管場所	A	B	C	D	E
	1階教材庫	0	0	0	0
No.	品名	規格等	備蓄数	梱包数	保管場所
1	カセットコンロ	カ:2800Kcal, 圧力感知安全装置付 ホ:1本/250g以上, 3本1箱	0 台	0 箱	0
2	やかん	容量: 3L, 1.6W脱アルミイト (さび防止)	0 個	0 箱	0
3	非常用発電機	2600:ガソリン, 2.2kVA, 5時間以上, 43kg 2500:ガソリン, 2.5kVA, 5時間以上, 29kg	1 台	1 箱	A
4	非常用発電機 (LPガス発電機)	定格出力:1.5kVA, エンジン排気量:98.5cc 約74時間/LPガス50kg換算	0 台	0 箱	0
5	石油ストーブ	灯油, 未満17畳・コンクリート34畳, 9時間以上, 燃費自動消火装置付	5 台	5 箱	A
6	投光器 (三脚付き)	定格電圧2.3A, 消費電力205W (1灯) 明るさ14000lm, 電線長5m	3 個	3 箱	A
7	電源ドラム	定格電圧4A, 電線延長30m 差込口2ピン 4個	1 個	1 箱	A
8	LEDランプ / マグネットライト	LEDランプ:幅15gと水約380mlで点灯 連続点灯約120時間	0 個	- 箱	0
9	ラジオ (手回し式)	手回し充電可能, 携帯充電可能 FM/AM, 2種類のLEDライト付	0 個	- 箱	0
10	延長コード	2ピン10個口, 3m, 定格: 125V/15A/1500W	0 個	0 箱	0
11	毛布	1枚真空パック包装, 140cm×190cm 難燃性, ページ無地	100 枚	10 箱	A
12	アルミ寝袋	軽量緊急用耐燃寝袋, 約100×200cm	0 個	- 箱	0
13	エアーマット	1箱/20枚, 180×80cm, 逆止弁, 断熱スポンジ, 1箱/ポンプ・空気抜きストロー・クランプ各2個	0 枚	0 箱	0
14	段ボールベッド	工具・テープ不使用, 190×90×37.5cm バーツ3種類, 断熱スポンジ・逆止弁・足付管接続	0 個	0 箱	0
15	簡易トイレ	断熱・断熱・断熱・断熱・断熱・断熱・断熱・断熱 1箱/5袋, 1袋/断熱断熱20枚・断熱断熱 20枚, 断熱断熱5枚・断熱断熱20本	0 個	0 箱	0
16	トイレ交換キット	1箱/5袋, 1袋/断熱断熱20枚・断熱断熱 20枚, 断熱断熱5枚・断熱断熱20本	0 袋	0 箱	0
17	トイレ用ペーパー	120枚/1箱, 100古紙, 1ロール55m	0 個	0 箱	0
18	からだふきタオル (30枚入)	5袋/1箱, 1袋/30枚入大判厚手のソフト タオル, フラットロール	0 袋	0 箱	0
19	ブルーシート	1袋/10枚, 3.6m×5.4m, #3000型	0 枚	0 箱	0
20	工具セット	A4ブック型, 70pcs	0 個	0 箱	0
21	ヘッドライト	単4アルカリ乾電池×3本付属, 連続点灯32時間, 定格光束70Lm 100CM×180CM×8mm, 折り込み 冷気発生防止装置	0 個	- 箱	0
22	アルミマット		0 個	0 箱	0

②授業中の事故

保健室における応急の対応はするが、基本的には保護者に連絡し対応してもらうか、状況によってはためらわずに救急車を要請し対応する。病院への付き添いが必要な場合には、担任や養護教諭に固定せず、医師への説明を想定し、事故の状況がわかる教員（例えば、体育の授業中の事故であれば担当の体育教師）が同行し、その後担任と交代するなどして確実に保護者に引き渡している。

③新型コロナウイルス流行後の対応

令和5年の新型コロナウイルス感染症5類移行後、少しずつ日常が戻りつつある。ただし、中学校時に「無理をしない」ように指導されてきていることもあり、容易に欠席・早退を希望するケースも見られる。体調管理面の指導はもちろん継続しつつ、「頑張る」指導を少しずつ行っていく必要がある。特に、不登校歴のある生徒や精神的な不安を抱える生徒が数多くいるため、丁寧に指導していかねばならない。

④生徒・保護者連絡におけるICTの活用

2018年9月の北海道胆振東部地震とその後の大規模停電(ブラックアウト)の際、電話連絡網が機能しなかったことを踏まえ、2018年10月から一斉送信メールのシステムを導入している。函館市内の多くの小中学校で導入されているため保護者の理解もあり、以前から100%に近い登録率となっていたが、令和4年度はコロナ関連の緊急連絡が必要な場合に備えて登録を徹底したことに加え、折を見て確認メールを送信して有事に備えた。実際に、新型コロナウイルス関連の連絡が必要となった際、全校・学年・学級別の連絡が可能であったため、大いに役立った。

令和6年度現在では、保護者にはLINE・安心メールの二つで、生徒にはTeamsなら

びにスタディサプリのメッセージ機能の二つによって情報伝達が可能になっている。

【現状と課題】

新学習指導要領に則り、新たな教育活動を模索・展開している。GIGAスクール構想に先立ってICT活用を推進してきた成果が出ており、渡島檜山の高等学校ではもっとも活用が進んでいる高校の一つである。

しかしながら、本校の活用は小中学校ではごく普通の取り組みとなっており、入学生や保護者の期待に応える意味でも、他校との差別化の意味でも、より一層の活用を推進する必要がある。積極的な学校外での研修参加ならびに、校内研修でのフィードバックを進める。

対面型の研修はもちろん、オンライン研修や教育関連の事業を手掛けている業者の講師派遣などもあるため、そういった機会も利用しながら理解を深めていきたい。

危機管理に関しては、引き続き函館市とも協力して災害備品の整備を進め、市の避難所としての役割も果たしていきたい。

5. 施設・設備等

(1) 図書室の運営

図書室の持つ重要な役割を考え、図書室・図書委員の活動がより活性化するよう工夫している。書籍スペースが狭いため、古い図書の除籍処理と貸し出し率の高い新しい図書の購入を進め、稼働率の上昇を目指している。令和4年度に生徒リクエストの受け付け方法や購入図書の審議・承認の流れを整理し、図書購入の機会を増やした。令和7年度以降も読書環境の整備に努め、読書習慣を定着させていきたい。

(2) 保健室の運営

(ア) 生徒の定期検査と健康管理・日々の対応

健康診断の項目・時期・該当学年

項目	場所	時期	該当学年
健康調査	校内	入学時	1 学年
身体計測		4 月	全学年
視力検査		4 月	全学年
聴力検査		4 月	1・3 学年
尿検査	中央病院健康管理センター委託	4 月	全学年
心電図		4 月	1 学年
レントゲン検査		4 月	1 学年
内科検診	学校医来校	4 月	全学年
歯科検診	歯科医来校	6 月	全学年

令和2年度に、新型コロナウイルス感染症の関係により、各検査の実施時期については弾力的に対応して構わないとの通知が出され、本校でも医療機関と相談しながら検査時期を変更して行っていたが、令和5年度からコロナ禍以前通り、早いタイミングで各検査を実施できた。これらの検査項目については、生徒の安全な学校生活・充実した学びを進めていく上で早期に実施するに越したことはなく、また、高体連・高野連大会への出場承認

に診断の結果が必要な場合もあり、令和 7 年度以降も関係各所と連携をしながら早めの実施を心掛ける。

保健室の利用状況

年度 ()は在籍数	内科的	外科的	相談 その他	総計 ()は 在籍数に対する%
令和 2 年度 (389 名)	448	221	225	894 (230%)
令和 3 年度 (395 名)	453	198	138	789 (200%)
令和 4 年度 (414 名)	379	218	80	677 (164%)
令和 5 年度 (355 名)	366	160	61	587 (165%)
令和 6 年度 (325 名)	356	94	103	553 (170%)

自分の症状を正確に認識し表現することが不得手で上手く伝えられない、身体以外の自分が抱えている問題への対処法が身についておらず不安でただ泣いてばかりいる等、精神的に未成熟な生徒が増え、対応に時間がかかり保健室滞在時間が長くなる生徒が増えてきている。また、コロナ禍で小中学校生活を送ってきた際に「無理をしない」ように指導されてきているせいか、若干の体調不良で欠席・早退を希望する生徒も多い。不登校歴または不登校傾向のあった生徒や、欠席扱いにはなっていなかったが別室登校を行っていた生徒の入学が増え、学年団が丁寧なサポートを行っているが、それとは別に「思いを受け止める存在」としての養護教諭の役割が大きくなってきている。

スポーツ振興センター災害給付状況

年度	発生件数	給付件数	給付額
令和 2 年度	17	61	1,078,230 円
令和 3 年度	15	41	318,312 円
令和 4 年度	13	49	922,952 円
令和 5 年度	8	29	497,443 円
令和 6 年度	9	59	655,754 円

スポーツ振興センター災害給付状況については上表の通りである。

函館市で高校生まで医療費がかからなくなったことの影響か、令和 5 年度に引き続き、例年よりも少額の給付となった。

＜生徒の精神的・肉体的な支援＞

高校生としては若い生徒が多く、特に困難・挫折・トラブルに直面し、乗り越える経験が少ない生徒が多い。自分の気持ちや怪我・病気の症状をうまく伝えることができない生徒が

多く、症状を把握する上で粘り強く対応することが肝要となる。また、友人間のトラブルの原因の中にも、コミュニケーションをうまく取れないことによるものが多く見受けられる。

現在推し進めている、生徒の「自立」を目指した指導の中で精神的な面での成長を促していくために、来室者の話に耳を傾け、励まし、助言し、そして担任団と連携をしながら、生徒自身の力で乗り越える経験をさせたいと考えている。

肉体的な支援としては新入生に健康調査を実施し、日常生活、体育の授業およびクラブ活動に支障のある病気やアレルギーを把握することにより、校内のみならず、クラブ活動での合宿や遠征時においても教育的な配慮ができるよう心がけている。また在校時に怪我や病気が発生した際には、保護者との連絡を速やかにとり、早退や通院等の対応をとっているが、最近では保護者と連絡が取れず、自宅に家族が不在等で対応に苦慮することが多くなっていることが問題である。その一方で、病気や怪我の相談だけではなく、学校生活全般にわたる様々な問題の相談のために養護教諭との面談を希望する保護者も増えてきている。

<スクールカウンセラーとの連携強化>

平成 24 年度より週 1 日配置されているスクールカウンセラーとの連携を強化している。特別な配慮を必要とする生徒や保護者への対応は、担当教諭・学年主任・クラブ顧問・養護教諭・スクールカウンセラーでチームを組んで行っている。直接カウンセリングを受けたくないといった生徒の問題も、養護教諭や担任がスクールカウンセラーと情報を共有し、対応や支援の方法を相談している。

<教職員の健康診断について>

教職員の健康診断は毎年 4 月に実施しているが、再検査となった教員は必ず受診して受診報告を全員がしている。

(3) 施設・設備

① 安全面からの対策

日頃から校舎内外の施設・設備に目を配り、生徒が安心して学校生活を送れるよう心掛けている。新型コロナウイルス感染症は 5 類に移行したが、熱中症に関しては年々危険性が高まっており、対処に必要な物品について準備するようにしている。

令和 6 年度はエアコン利用のルールを決め、実際に使用を開始したが、教室においては安心して学習の臨めるようになった。それ以外の場所で体調不良を訴える者もいるが、事情を確認すると睡眠や食事のとり方に問題がある場合が多く、そうした面での指導も強化していく必要がある。

② 校舎の設備関係

日頃から校舎内外の安全に留意し、学校安全計画に則って安全管理を行なっている。日常の点検の他、大きな学校事故が起こった際には北海道教育委員会や学事課等から発出される通達に則って臨時の点検を行っている。

【現状と課題】

教育活動を安心・安全に行うため、日常的に施設・設備に注意を払い、事故の未然防止に努めている。より安全な環境を整備すべく努めているが、施設・設備の老朽化が進んでおり、手を入れる箇所が毎年出てきている。また、スペース的にも余裕が全くないため、少しでも効率の良い教育環境を整えること、また環境維持を心掛けて、令和 7 年度以降も随時見直しを図っていく。

6. 管理・運営

(1) 安全教育・安全対策

① 生活・交通の安全教育・安全対策

＜AED（自動体外式除細動器）の設置＞

平成 18 年より、2 か所（正面玄関ならびに石川グラウンド）に AED を設置し、万が一の事態に備えている。令和 6 年度は AED の機種交換を行った。

＜薬物・性教育等の講演会＞

例年、性について、薬物について、煙草と健康について講話を行っている。性については 1 年生を対象に、「函館 性と薬物を考える会」のメンバーで函館在住の産婦人科医の方に講話をお願いした。講師との相談により、男子・女子を分けて実施することで、より深いところまで掘り下げた講話を行っていただいている。煙草と健康については 1～2 年生を対象に協会病院の方に講演をお願いした。

薬物に関しては、1・2 年生を対象に函館中央警察署から講師を招き、講話をお願いした。特に、薬物に関してはここ数年函館市内でも薬物汚染の拡大が懸念されており、教護連盟その他の機会によく話題になっている。現在のところ、本校生徒に事例はないが、中学校では報告事例もあり、今後一層の注意が必要である。

＜交通安全講習会＞

毎年、年度初めに函館自動車学校の協力を得て、校内で自転車運転安全講習会を実施している。令和 6 年度は函館自動車学校から講師をお招きし、講習会を実施した。自転車同士、または自転車対自動車あるいは歩行者も絡んだ事故が増加しており、今後も指導を継続する。また、以前よりは減少しているものの、自転車の通行、駐輪等のマナーにも問題があり、苦情の電話が入ることがある。電話等により危険な状況を把握した際には、全校生徒に注意を呼び掛けるとともに、生徒指導部や副担任を中心に当該箇所へ指導に出るようにしている。

＜ケータイ・スマホ安全教室＞

これからの社会を生きていく上で、ICT スキルは必須であり、本校でも積極的に活用を進めているが、その一方で、スマートフォン・SNS が関係したトラブルが全国的に問題となっている。HR や情報の授業等でも「安全な使用」について指導しているが、令和 6 年度は KDDI から講師を招いて、安全教室を実施した。従来の講話では、詐欺や個人情報流出等の内容が中心だったが、近年の傾向を受けて、闇バイトや薬物、SNS 等によるコミュニケーション障害、社会との断絶といった、より広い範囲の問題についても触れていただけるようになっている。

(2) 財務関係

① 納付金

高等学校等就学支援金等で複雑化する学費引き落としパターンに対応するために平成 26 年度に学納金引き落とし管理システムの更新を行うと共に引き落としができなかった場合に、ゆうちょ銀行振込票での入金をできるようにし徴収の効率化を図った。また、学納金引き落とし管理システムについて更新サポートが切れたため、令和 5 年度から新たなシステムを導入したが、れういあ 6 年度においてもスムーズかつ正確に運用できた。

また ICT 環境の充実をはじめ、より一層の教育充実をはかるために令和 5 年度から新たに教育充実費を徴収したが、令和 6 年度も環境整備について、常に新たな情報を収集すべ

くアンテナを張り巡らせている。

② 教育費の負担軽減

教育費の負担軽減として国から「高等学校等就学支援金」、北海道から「私立高等学校等授業料軽減制度」、「奨学のための給付金」を活用できるようになり、経済的に厳しい家庭の学費負担が軽減され、私立高等学校への就学がさらに容易となった。

これらの制度を中学生ならびに保護者に周知していくことも、入学者を増やす大切な方策である。中学校での進路講話、中学校教諭を対象とした私立合同進学説明会、中学生や保護者を対象とした私立高校進学フェアなどの機会に、本校ばかりでなく、函館に所在する私立高校 8 校が連携し、制度の周知に努めている。

③ 補助金

「私立学校管理運営費補助金」の「特色教育加算」に関する取り組みも認められ補助金が交付された。

本校では実施できなかった項目もあるが、今どのようなことが学校に求められているのか、時代や社会のニーズを把握するようにアンテナを張って教育内容の充実に努め、次いで教職員の補助金に関する意識を高め、加算項目の取りこぼしがないように注意していきたいと考える。

④ 予算・決算

＜編成方針と執行＞

厳しい財政状況の中、各支出科目の内容を吟味し、教育効果が上がるよう効率的な予算編成を目指していく。

期中においては、日常業務にも追われ、執行時期が遅れる事があり、反省すべき点である。

この反省点から、常に執行状況に注意を払い、的確な予算運用に努めていくが、予算未計上の突発的事案については、学園本部に稟議をあげ、対応していくこととなる。

また、修繕作業等の予定が入った場合には、授業・補習・検定等に支障が出ないように、スケジュールの管理を怠らないように注意していく。

＜収支のバランス＞

柏稜高校は経常収支差額比率が 2.0%、教育活動資金収支差額比率が 12.7%となっている。今後、施設設備の老朽化による修繕や改修が増えてくることが予想され、無駄な経費の削減により支出を図り収支のバランスの均衡に努めていく。

【現状と課題】

国の就学支援金、道の授業料軽減補助、奨学のための給付金制度など、経済的支援は充実してきたが、その分、事務作業は年々増加している現状である。また、制度変更・システム変更も実施されており、今後も細心の注意を払っての対応が必要である。ただし、マイナンバーの活用なども始まり、事務負担が軽減されてきてはいるが、まだまだ注意深く事務処理を行う必要がある。

「管理運営補助金」の「特色教育加算」の獲得では、教員との連携を密にして取りこぼしの無いよう心掛けている。

令和6年度 学 校 評 価 表			No. 1		
点 検 項 目	No	評 価 項 目	良 ← 並 → 悪 5 4 3 2 1		評価点
・学園理念	1	学園訓の教えが理解されるよう、様々な機会に学園訓について触れていると思いますか。			3.80
・学園理念	2	学園訓の教えを、教育活動全体を通じて生徒たちに体得させられていると思いますか。			3.76
・教育活動	3	教育活動を通じて「自立」した生徒の育成に努めていると思いますか。			3.80
・教育活動	4	ICTや学び直しを通じて、生徒の基礎学力や学習力の向上に努めていると思いますか。			4.20
・教育活動	5	これからの時代に必須のICT活用能力の養成に努めていると思いますか。			4.12
・教育活動	6	ICT教材の活用、ALTとのコミュニケーションを通じ、異文化を理解する姿勢や能力の養成に努めていると思いますか。			3.76
・教育活動	7	総合的な探究の時間において、様々な視点を獲得し、思考力や表現力を高めていく総合探究が展開されていると思いますか。			3.80
・学習指導	8	生徒の能力、適性等を考え、教科指導計画が立てられていると思いますか。			3.96
・学習指導	9	学力や意欲の向上のため、適切な指導と評価がなされていると思いますか。			3.64
・学習指導	10	生徒の学習意欲を喚起するための工夫がなされていると思いますか。			3.60
・学習指導	11	生徒の学力向上のために、年間授業時数が十分に確保されていると思いますか。			4.16
・学習指導	12	生徒の学習習慣の定着のため、適切な働きかけができていますか。			3.48
・生徒指導	13	教師と生徒の信頼関係を育てることが、指導の根底におかれていると思いますか。			3.96
・生徒指導	14	家庭や各組織との密接な連携のもとに、組織的な指導が行われていると思いますか。			3.68
・生徒指導	15	本校の生徒指導は、人間形成や社会で運用する資質の育成につながっていると思いますか。			3.96
・進路指導	16	進路指導部との連携のもとに、的確な情報・資料を提供し、計画的、組織的に指導していると思いますか。			4.04
・進路指導	17	個別指導など進路相談を充実することにより適切な援助・指導がなされていると思いますか。			4.08
・進路指導	18	キャリア教育の充実を基礎として将来的な視点に立った指導が行われていると思いますか。			3.88
・進路指導	19	生徒の進路実現に向けて、外部試験の結果を分析し、指導に生かすことができていると思いますか。			3.60
・クラブ指導	20	本校の部活動は、活動を通じて生徒の成長を促すものになっていると思いますか。			3.84
・クラブ指導	21	部活動の数は、生徒数・教員数から考え、適切だと思いますか。			2.44
・学校行事	22	生徒の成長につながり、高校生活の思い出となる、創意に富んだ行事が展開されていると思いますか。			3.60
・学校行事	23	それぞれが役割を分担し、相互に協力して学校行事の成功に向けた活動ができていると思いますか。			3.56
・学級活動	24	社会やクラスの一員としての自覚や責任感を育み、生徒の学びとなる学級活動が展開されていると思いますか。			3.60
・生徒会活動	25	生徒会活動において、生徒の自主性を高め、成長を促す指導がなされていると思いますか。			3.60
・生徒会活動	26	各種行事やあ生徒会の活動を教員が十分にサポートできる体制が整っていると思いますか。			3.44
・学校運営	27	学校の将来像を見据えた運営が行われていると思いますか。			3.40
・学校運営	28	充実した教育活動のために、ICT環境や校内環境が適切に整備されていると思いますか。			4.04

令和6年度 学 校 評 価 表

No. 2

点 検 項 目	No	評 価 項 目	良 ← 並 → 悪 5 4 3 2 1	評価点
・分掌組織	29	分掌内における連携が十分行われていると思いますか。		3.48
・分掌組織	30	校務分掌は、校務を運営する上で、効果的に機能していると思いますか。		3.80
・教育課程	31	生徒の能力、適性、進路に適合するよう教育課程が編成され、実施されていると思いますか。		3.72
・教育課程	32	普通科における情報教育を充実、本校の教育活動に良い影響をもたらしていると思いますか。		3.84
・コース制	33	本校のコース制(総合進学コース・情報ビジネスコース、TCコース・SCコース)は、生徒の進路希望の実現につながるものとして設定されていると思いますか。		3.60
・学級運営	34	学年団の連携と協力のもと、各学級が適切に運営されていると思いますか。		4.08
・学級運営	35	学級担任・副担任は生徒の能力や個性を把握し、それに応じた指導をしていると思いますか。		3.76
・関連校連携	36	教育活動、生徒の進路等の面で、学園内における連携が図られていると思いますか。		3.88
・各種研修	37	校内外での研修会参加や他校訪問などが、教師の資質向上のための有効な手段になっていると思いますか。		3.44
・各種研修	38	講師を招いての講話や分析会などの研修は、指導や教育活動に役立っていると思いますか。		3.88
・各種研修	39	健康安全教育の禁煙・薬物・交通安全に関する講習・研修会は生徒のために意義あるものになっていると思いますか。		4.12
・連携	40	柏木町会等、地域社会との連携は図られていると思いますか。		3.16
・連携	41	PTAとの連携は図られていると思いますか。		3.40
・連携	42	本校ではボランティア活動が十分に行われていると思いますか。		3.12
・連携	43	本校の行事等の様々な活動は、地域社会に認知されていると思いますか。		3.16
・生徒募集	44	学校見学会で、中学生や保護者に、効果的に本校をアピール出来たと思いますか。		4.00
・生徒募集	45	現在の中学校訪問による生徒募集システムは効果が上がっていると思いますか。		3.88
・管理運営	46	本校の危機管理に対する体制は整備されたものと思われますか。		3.08
・管理運営	47	ICTツールの活用によって、学園内、学校内の連携は上手く図られていると思いますか。		3.56
・各種予算	48	教育活動を充実させるため、効率的な学校運営を行うため、予算の計画・執行が適切に行われていると思いますか。		3.64
・社会的責務	49	本校では、個人情報の取り扱いに関して注意深く慎重に行われていると思いますか。		3.84
・社会的責務	50	教職員は、ハラスメントについて十分に注意した言動をとっていると思いますか。		3.12

令和6年度学校運営に関する学校関係者評価		
函館大学付属柏稜高等学校		
評 価	5、そう思う	4、どちらかと言えばそう思う
	3、どちらとも言えない	2、どちらかと言えばそう思わない
	1、そう思わない	
I 学校運営の状況	平均	昨年
1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。	4.7	4.5
2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。	4.8	4.5
3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。	4.3	4.4
II 授業等の状況		
4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。	4.5	4.4
5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。	4.5	4.4
6、学校は、授業・行事等の教育活動において、ICTを積極的に活用し、スキルの伸長に努めている。	4.5	4.4
7、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。	4.7	4.3
III 生徒指導・管理の状況		
8、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。	4.7	4.0
9、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。	4.8	4.0
10、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。	5.0	4.5
11、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。	4.8	4.0
IV 家庭・地域との連携協力の状況		
12、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。	4.7	4.1
13、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。	4.2	4.1